

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
556	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Beverage-specific alcohol intake and bone loss in older men and women: a longitudinal study. 老年男性と女性における飲料特異的アルコール摂取と骨減少：長期縦断疫学研究	
<b>執筆者</b>	
Yin J, Winzenberg T, Quinn S, Giles G, Jones G.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Eur J Clin Nutr. 65(4): 526-532 (2011)	
<b>キーワード</b>	
骨密度、BMD、アルコール摂取	
<b>要 旨</b>	
<p><b>背景/目的：</b> 中等度アルコール摂取と骨密度 (BMD) との関連性に関しては一致した事実がない。本研究の目的は、老年男性と女性で、アルコール摂取総量や飲料特異的摂取量と骨減少との関連について検討することである。</p> <p><b>対象と方法：</b> 無作為に選択した 862 名の対象 (平均年齢が 63 歳、年齢 51-81 歳、男性 51%) で調査開始時の基準値と 2 年後の値について検討した。BMD は二重エネルギー X 線吸収測定法で評価した。飲料特異的アルコール摂取量とアルコール摂取総量は食品摂取についてのアンケートで評価した。転倒の危険性は Physiological Profile Assessment (筋力、バランス、胎生感覚、視覚機能の複合検査) の簡易版を用いて測定した。新規の骨折はアンケートで確認した。</p> <p><b>結果：</b> 男性で、交絡因子を調整した後のアルコール摂取総量は、腰椎と臀部の BMD で推定された変化と関連していた (腰椎 BMD、骨 1 g、1 年当たりの変化相関係数 <math>\beta=0.008\%</math> ; 臀部 BMD、<math>\beta=0.006\%</math>、<math>P&lt;0.05</math>)。一方、女性ではアルコール摂取総量と BMD の変化での有意な関連性は認められなかった。調査開始時の腰椎 BMD 値は、男性では蒸留酒とリキュールの摂取頻度と負の相関が認められ (<math>\beta=-0.01 \text{ g/cm}^2</math>、<math>P=0.045</math>)、また、女性では、ビール摂取の頻度 (低アルコール) と正の相関が認められた (<math>\beta=0.034 \text{ g/cm}^2</math>、<math>P=0.002</math>)。男性での腰椎 BMD の変化は赤ワイン摂取と正の相関が得られた (1 年当たりの変化相関係数 <math>\beta=0.08\%</math>、<math>P=0.046</math>)。飲料特異的アルコール摂取量やアルコール摂取総量は、転倒危険性や骨折との相関はなかった。</p> <p><b>結論：</b> 老年男性や女性で、アルコール摂取、特に赤ワインは骨低下を抑制するかもしれない。また、女性で、低アルコールのビールの摂取は骨低下に抑制的に作用し、一方、男性では、蒸留酒とリキュールの摂取は骨密度に対して有害に作用する。</p>	